

1.2 利用者との接続形態

NACCS センターサーバと各利用者システムとの接続形態として、利用ネットワークごとに NACCS ネットワーク（ルータ接続、ゲートウェイ接続）、インターネット（netNACCS 接続、WebNACCS 接続、netAPI 接続）がある。イメージを、図 1-2-1 に示す。

1.2.1 NACCSネットワーク

(1) ルータ接続

NACCS センターサーバと利用者のパソコンを 1 対 1 または、複数のパソコンを接続する形態であり、データ送受信処理方式として、インタラクティブ処理方式が利用可能である。

NACCS センターが提供する『パッケージソフト インタラクティブ処理方式』を使用し、NACCS センターサーバへのアクセスは専用線またはブロードバンド光の回線が利用可能である。

(2) ゲートウェイ接続

NACCS センターサーバと利用者のゲートウェイコンピュータを接続する形態である。

(A) ゲートウェイ接続（SMTP/POP3）

データ送受信処理方式として、メール処理方式が利用可能であり、アクセス回線として、専用線またはブロードバンド光の回線が利用可能である。

(B) ゲートウェイ接続（SMTP双方向）

利用者側サーバでインタラクティブ処理のインターフェースを守ることが前提である。データ送受信処理方式として、インタラクティブ処理方式（SMTP 双方向）が利用可能であり、アクセス回線として、専用線またはブロードバンド光の回線が利用可能である。

❗ NACCS ネットワークとは、NACCS が提供する専用網である。
常時、NACCS センターサーバへの通信経路を確立させておく接続方法であり、回線の利用時間に関わらず、回線の使用料金は一定である。
ブロードバンド光接続は、ベストエフォート型回線のため、帯域保証は無い。
（「付録 2 アクセス回線とアクセスポイントについて」を参照）

1.2.2 インターネット

(1) netNACCS接続

NACCS センターサーバと利用者のパソコンとを、1 対 1 で接続する形態であり、データ送受信処理方式としてインタラクティブ処理方式（netNACCS）が利用可能である。

NACCS センターが提供する『パッケージソフト netNACCS 処理方式』を使用し、NACCS センターサーバへのアクセスは、インターネット回線を利用して行う。

利用者側のパソコンと NACCS センターサーバの間は、クライアント/サーバ認証を行い、通信は HTTP の暗号化においてデファクトスタンダードとなっている TLS を採用する。

(2) WebNACCS接続

NACCS センターサーバと利用者の端末（パソコンやスマートフォン）とを、1 対 1 で接続する形態であり、データ送受信処理方式として WebNACCS 処理方式（Web ブラウザを使用）が利用可能である。

Web ブラウザを使用し、NACCS センターサーバへのアクセスは、インターネット回線を利用して行う。

利用者の端末（パソコンやスマートフォン）と NACCS センターサーバの間は、クライアント/サーバ認証を行い、通信は HTTP の暗号化においてデファクトスタンダードとなっている TLS を採用する。

(3) netAPI接続

NACCS センターサーバと利用者のゲートウェイコンピュータを接続する形態であり、データ送受信処理方式としてインタラクティブ処理方式（netAPI）が利用可能である。

アクセス回線として、インターネット回線が利用可能である。利用者のゲートウェイコンピュータと NACCS センターサーバの間は、クライアント/サーバ認証を行い、通信は HTTPS の暗号化においてデファクトスタンダードとなっている TLS を採用する。

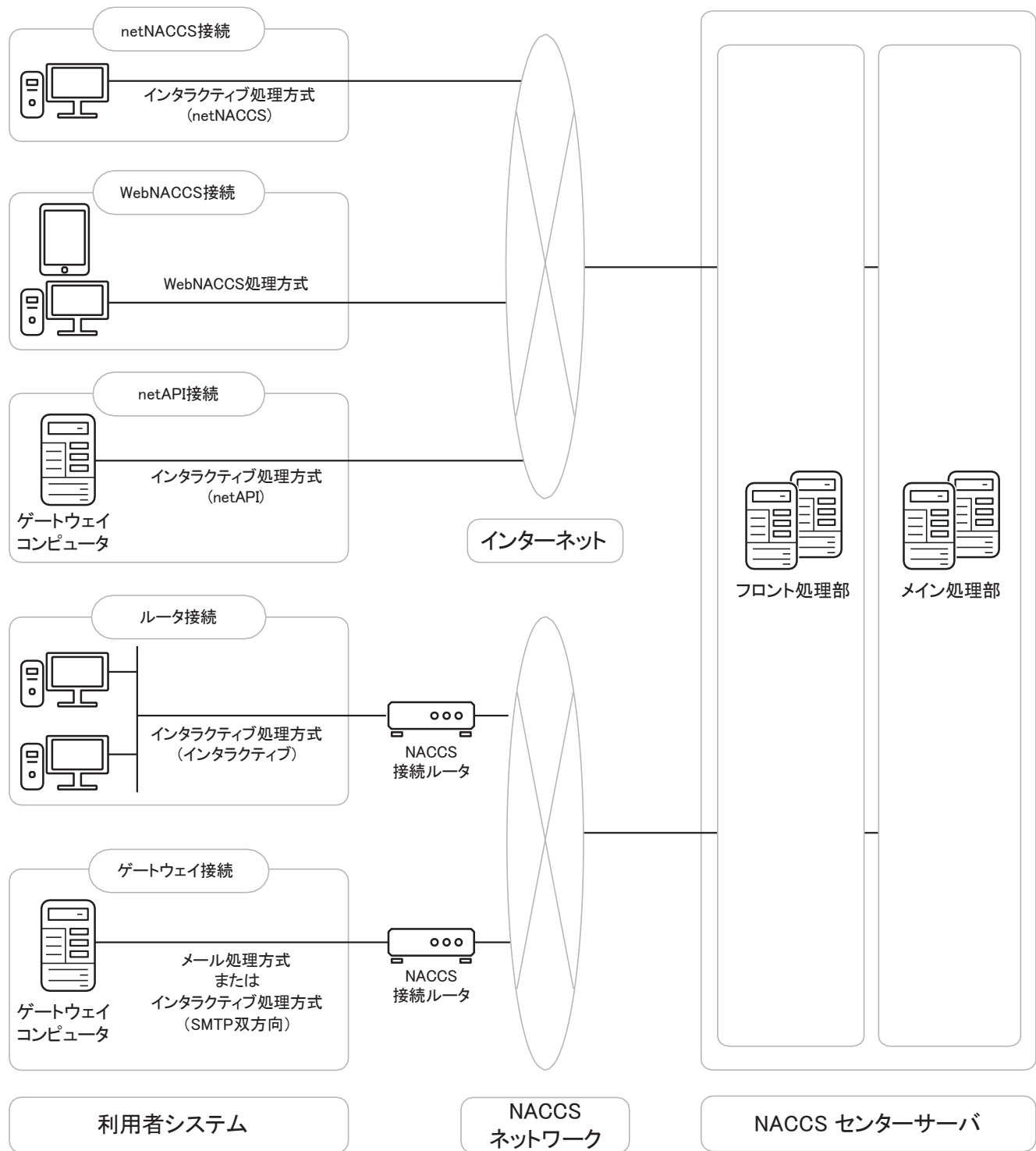


図 1-2-1 利用者との接続形態